大牟田市立上内小学校

1　学習に取り組んでいる主な分野

□生物多様性	□海洋	□防災・減災	□気候変動
□エネルギー	☑環境	□文化多様性	□世界遺産・文化財
□国際理解	□平和	□人権	□ジェンダー平等
□福祉	□生産と消費	☑その他（　郷土　）	

2　ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましく未来を拓く上内っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、「身近なふるさとの自然や環境との関わりを通して、他の人と積極的に関わりながらの環境保全を中心に、実践的に取り組む態度を養い、持続可能な社会の担い手を育成する。」というＥＳＤの目標を設定した。

具体的には、体験活動、人材活用、自己の生き方をキーワードに、①地域の自然への関心を高め、上内のよさを発見する活動　②地域とつながる農業体験活動を中心に学習を行った。

3　特徴的な活動事例の紹介

○　地域の自然（川）への関心を高め、上内のよさを発見する活動に係わる学習

ふるさと上内の豊かな自然を守り残していくために、本校では、校区を流れる岡川の環境について調べた。

３年生は、岡川探検に行き水質により棲む生物が違うことから、実際に採取してきた生き物の種類や生態を調べ、分かったことを壁新聞にまとめて発信した。４年生は川の水の透明度を測ったり、パックテストで水の汚れを測定したりした。これらを下流域と比較することで、上内の川のよさを知り、この自然を守るために自分にできることについて考え、取り組み始めた。また、市内５校合同川サミットを開き、川の環境保全について意見交流を行った。

○ 地域とつながる農業体験活動に係わる学習

上内校区は自然豊かであり、農業が盛んである。そこで、地域の方に GT として来ていただき、一緒に米作りを行うことを通して、上内の魅力の一つであるお米がどのように作られていて、どのような思いで育てられているのかを学んだ。

また、学習を進めていく中で、農家の減少・あと継ぎ問題などの課題にもふれ、その課題を解決しようと取り組んでいる方にも GT として来ていただき、理解を深めた。地域の方の米作りや農作物に対する努力や思い、自然環境の素晴らしさを学び、上内のひと・もの・ことのよさに気付くことで、地域への愛着を深め、上内の素晴らしさを外部に発信していった。

さらに、学習したことを、本校の交流校へリモート会議で発信し、お互いの地域の特徴やよさ、課題を出し合った。交流することによって、離れていても生まれ育ったふるさとへの思いは共通していること、守り続けるために自分ができることに取り組む大切さについて学んだ。

3　今後の活動計画

令和５年度は、ＥＳＤにおいてさらに、身近なふるさとの自然や環境との関わりを深められるような体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1．低学年では、季節に応じた体験的な活動を通して、地域の自然環境の素晴らしさに気づき、地域のよさを実感する。活動して気付いたことや感じたこと、分かったこと等について話し合ったり、まとめたりして発表する。

2．中学年では、地域を流れる川について調べることで身近な環境の素晴らしさに気づき、地域に愛着を持ち、自分にできる環境保全活動について考え取り組む。また、調べて分かったことや自分の考え、思いや願いを、他校の児童と交流したり、保護者、地域の方等に発信したりする。

3．高学年では、地域の方との米作りや農業体験を通して生産者の努力や思いを知り、地域に誇りを持つとともに、上内米や農作物のよさを広く発信する。また、持続可能なまちづくりについて自分たちなりに考え、できることから行動する。さらに、他のユネスコスクールと交流して見識を広げたり、保護者や地域の方に学んだことや自分の考えや思いなどを発信したりする。